

テーマ デジタル技術を活用した『人の流れ』の促進

日時 令和5年9月1日（金） 15:00~17:00

Zoom会議

主催：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

事業委託事務局：PwCコンサルティング合同会社

意見交換会の内容

○概要

デジタル技術を活用した「生涯活躍のまち」に係る知見・ノウハウの共有のため、

山梨県都留市及び鳥取県南部町 から取組について発表
及び「生涯活躍のまち」に関心がある参加者との**意見交換を実施。**

意見交換会には、**38団体**の地方公共団体にご参加いただきました！

※うち「今後、取組を推進したいと考えている／取組みを検討中」24団体

○「事例発表」の参加者の声



取組み内容だけではなく、**施策を進めるうえで課題と感じている点**などを聞くことができた



自治体で抱える課題が異なることや、簡単には真似できないと思う点もあったが、**取組のプロセスや具体的な取組事項等**分かりやすく説明いただき、**参考になる部分が多かった**



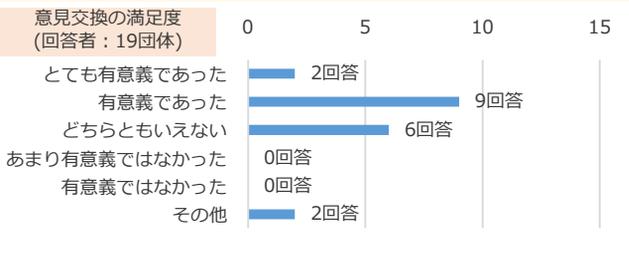
○「意見交換」の参加者の声



実際に苦労している点等、**本音の部分も説明いただき参考になった**



参加者が自分の考えや感想を自由に発言でき、**お互いの知識や理解を深めることができた**



当日のプログラム

山梨県都留市・鳥取県南部町から事例紹介いただき、**両市町との意見交換を実施**

○事例紹介

デジタル技術を活用した「生涯活躍のまち」の取組概要や具体化プロセス等について、苦労した点、新たな気づき、事業推進の成果等を踏まえ事例紹介

山梨県 都留市
オンライン×関係人口

**オンラインを徹底活用した
「生涯活躍のまち ビジネスプランコンテスト」**

鳥取県 南部町
AIデマンド×地域交通

**AIデマンド乗合タクシー型バス
(通称『バクシー』)**

○意見交換

山梨県都留市、鳥取県南部町合同での、事前に寄せられた質問への回答や、事例紹介への質問等を含めた、自由な意見交換

取組の概要、意見交換会の概要について次頁以降で！

事例紹介と参加者からのQUESTION

山梨県都留市

◆コンセプト：ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる

<デジタル技術を活用した取組>

オンラインを徹底活用した「生涯活躍のまち ビジネスプランコンテスト」の開催

<取組の全体像>

2020年より、一般社団法人まちのtoolbox がビジネスプランコンテストを開催。社会課題の解決を自立的に持続可能な形で行いたいと考える起業家に対して、実現に向けたビジネスプランのブラッシュアップ・実証の場等を提供する取組を実施。全国から幅広く熟意あるアイデアを募集するため、原則オンラインで実施。

開催にあたっては、「生涯活躍のまち事業」を推進するビジネスプランナー、それをサポートするメンター・サポーターが全国から集まり、3年間で累計70件のエントリー40名以上のメンター・サポーターが参画。また、都市部からの移住起業にも繋がっている。



事例に関するQuestion



生涯活躍のまち・つる推進協議会を法人化して、一般社団法人まちのtoolboxを設立したとのことだが、**前身の協会の目的や協議会の構成、法人化に至った背景をお伺いしたい。**また、**行政関連事業の内製化に取り組んでいる背景についてお伺いしたい。**

2015年より「生涯活躍のまち」事業の取り組みを開始し、庁内にプロジェクトチームを組成した。そして2016年に、民間事業者も交えたCCRC研究会を立ち上げ、事業の検討を進めていた中で、**市や国の予算を活用して事業を実施する受け皿がないことから、サービス付き高齢者向け住宅の事業者や地域おこし協力隊の方に参画いただき、生涯活躍のまち・つる推進協議会を立ち上げた。**行政関連事業の内製化は、**まちのtoolboxとして自ら事業に取り組みたいという思いや、人材を育成して地域内の人材で事業を完結させたいという思い**から取り組んでいる。



貴市の考える高齢者のあるべき姿があればお伺いしたい。

「生涯元気で活躍できる高齢者でいてほしい」ということを基本としており、高齢者向けの「生涯活躍のまち」事業として行っているサービス付き高齢者向け住宅の誘致においても、自立型のサービス付き高齢者向け住宅中心に誘致を行っている。また、高齢者が社会と接点を持つための居場所事業にも取り組んでおり、**高齢者が生きがいを持って集まれるような場所を各地域で展開し、虚弱化や孤立化しないことを目指している。**



都留市



都留市

鳥取県南部町

◆コンセプト：あなたのいきかたをデザインできるまち

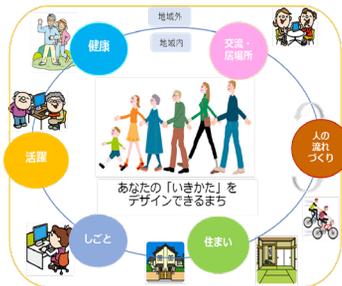
<デジタル技術を活用した取組>

町内AIデマンド乗合タクシー型バス運行事業

<取組の全体像>

利用者の減少傾向とバス停の少ない課題解決のために、地域全体をカバーする町営バスのうち、北部を走るバスの一部時間帯でAIデマンド乗合タクシー型バス（通称『バクシー』）の運行を2022年より開始。

電話やスマホでの予約が可能で、新設のものを含む、町内198箇所から乗降が可能。移動の利便性と運行の効率性を高めている。今年度中には南部を合わせたエリアで運行できるよう取り組んでいる。



事例に関するQuestion



デマンドバスの運賃体系について伺いたい。高齢者の利用が多いとのことだが、**どのような層がどのような目的で利用しているのか。**また、デマンドバスを利用しない方はどのように移動しているのか。

1乗車あたりでの定額運賃となっており、**中学生以上から75歳未満は150円、小学生以下と75歳以上は100円である。**運賃は近隣の市町村と比較しても突出して低い。通院や買い物、趣味のための移動などで利用する方が多く、デマンドバスを利用していない方は、家族の送迎で移動していることが多い。**趣味のために移動する高齢者が、積極的にデマンドバスを利用している印象を持っている。**今後は福祉事業と絡めた交通のあり方の模索と、町全体の交通インフラの最適化を検討していきたい。



当町でも、乗合バスの運行を検討しているが、事業実施にあたり、**スマートフォンの普及率の低さがボトルネックになっている。**貴町におけるスマートフォン普及率についてお伺いしたい。

当町におけるスマートフォン普及率に関する正確なデータはないが、低いと思われる。デマンドバスを利用する方の多くが、小学生または、高齢者であり、**利用予約の約98%が電話予約である。**インターネットの予約システムもあるが、利用者の多くが電話予約する現状を踏まえ、携帯電話を持っていない方向けに、病院での電話の貸し出しのお願いやスーパーに公衆電話の設置依頼を役所として取り組んでいる。



南部町



南部町

「生涯活躍のまち」に取り組むきっかけは？



都留市

▶ **市長が「生涯活躍のまち」に取り組みたいと考えていたことがきっかけの1つ。**
「生涯活躍のまち」をトップダウン的に取り組みたいという意向があり、庁内全体のプロジェクトチームを組成した上で、民間事業者を交えた研究会を開催した。様々な方に門戸を開いた上で、事業を展開してきたことが現在の事業に繋がっている。



南部町

▶ **当町の総合計画を策定する際に立ち上げた「なんぶ創生100人委員会」の議題の1つに「生涯活躍のまち」事業が挙がったのがきっかけ。**その後、委員会の座長が中心となり、まちづくり会社を設立し、地域再生推進法人となり、「生涯活躍のまち」事業を協働して推進している。

現在当町には、3つの地域再生推進法人があり、庁内の様々な部局や地域振興協議会とともに、「生涯活躍のまち」の第2期計画を実施している。また、計画策定にはオブザーバーとして、鳥取県の職員などにも参画いただいた。地域再生推進法人はそれぞれ事業を実施しているが、「生涯活躍のまち」の達成に向けて連絡調整会議を月次で開催し、連携している。

デジタル技術を活用する上で大切なことは？

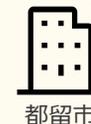


南部町

▶ **地域住民が必要としているデジタル技術を模索することが重要。**

デジタル技術の検討に当たり、なるべく現地調査を実施し、地元のニーズを吸い上げることが必要。

まずは**デジタル技術を活用して職員の窓口業務の負担軽減**に取り組み、浮いた時間を活用して**地域の抱えるニーズを吸い上げることや、地域住民との接点を持つことが重要。**



都留市

▶ デジタル技術を導入する背景は2つあると考えている。1つは行政内に導入するデジタル技術、もう1つは市民発意による新たなデジタル技術の導入。行政内に導入するデジタル技術は、既存業務のデジタル化によりどの程度的人员削減が可能か、また財源が確保できるかが判断指標となる。

市民発意にあたるのは「Civic Tech」という共助に向けたデジタル技術があり、一般社団法人まちのtoolboxは、**市民と行政の関係を強化するためにデジタル技術の活用**に取り組んでいる。

財源は？



都留市

▶ **デジタル田園都市国家構想推進交付金** (旧 地方創生推進交付金) を活用した。



南部町

▶ **デジタル田園都市国家構想推進交付金** (旧 地方創生推進交付金) を活用した。

地域住民の方への説明は？



南部町

▶ **横文字に抵抗がある地域住民もいるため、丁寧に説明することを心掛けた。**

また、事業を淡々と説明することを避け、地域住民向けの説明会では劇形式での説明で行うなど、利用方法や手続き等のフローを丁寧に説明しながら、**実際の利用を想像できるように心掛けた。**

事業を推進する中で新たに増えてきた課題とは？



都留市

▶ 事業開始当初は想定していなかったが、ビジネスプランコンテストを完全オンラインで開催しているものの、応募者のほとんどが都留市に1度お越しいただいている。そのため、参加者と地元の民間事業者との情報交換の場を設けているが、**市内で協力いただける民間事業者の数にも限りがあり、対応される方の負担になっていることが課題。**運営者としては、特定の方に負担が集中しないように心掛けている。



南部町

▶ 事業を推進している中で、課題に感じている点としては、**地域内のデジタル人材が不足していること。**

町内にIT事業者はいるものの、デジタル人材が不足している。また、町内の民間事業者もDX化に取り組んでいるが、そもそもやり方がわからない、取り組もうにも人材が不足しているといった現状がある。中長期的に考え、**外部人材に頼るのではなく、地域内で人材を育てることに注力していきたい。**

連絡先

○「生涯活躍のまち」全般について
内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
中村・曾我・吉本・大橋
電話：03-6257-1414
メール：nihonban-ccrc.n2c@cas.go.jp

○本事業に関するお問い合わせについて
PwCコンサルティング合同会社 (本事業委託先)
東海林・横山・尾崎
電話：050-3196-9872
メール：jp_cons_multigenerational@pwc.com